平成２８年　１１　月　９　日

平成２８年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立　　昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２８年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成28年4月19日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①	国語Ａ	47人	国語Ｂ	47人
②	算数Ａ	47人	算数Ｂ	47人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

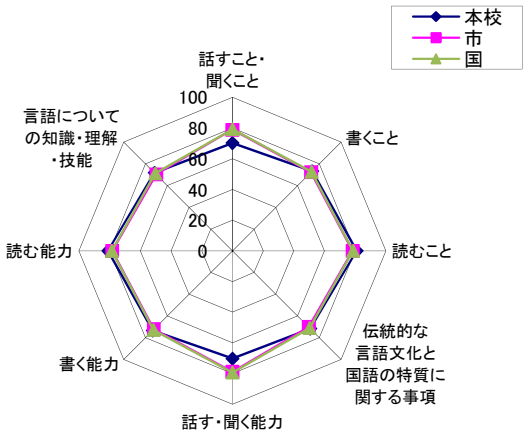
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

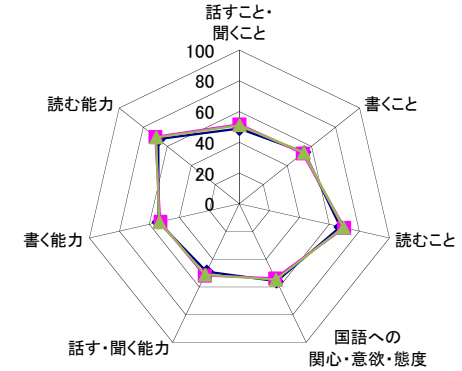
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	70.2	78.8	79.2
	書くこと	73.4	72.4	72.8
	読むこと	80.9	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.7	70.3	71.1
観点	国語への関心･意欲･態度			
	話す･聞く能力	70.2	78.8	79.2
	書く能力	73.4	72.4	72.8
	読む能力	80.9	78.3	78.5
	言語についての知識･理解･技能	71.7	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	48.9	51.7	51.1
	書くこと	53.9	52.7	53.4
	読むこと	67.4	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心･意欲･態度	55.9	53.8	54.7
	話す･聞く能力	48.9	51.7	51.1
	書く能力	53.9	52.7	53.4
	読む能力	67.4	69.9	69.3
	言語についての知識･理解･技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

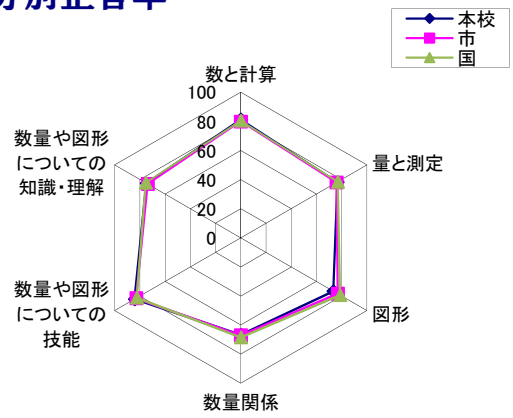
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●話すこと･聞くことについて国語Aでは，市や全国の平均を大きく下回る結果になっている。話し合いの説明として適切なものを選択する問題で，目的や意図に応じて，収集した情報を関係付けながら話し合う場面での正答率がかなり低かった。国語Bでも，市や全国の平均より低くなっているため，この領域において苦手であると言える。	･日常生活に密着している領域であるが，国語の技能としての話し方･聞き方に関する力を高められるようにしたい。今回の国語Aでは，個々の発言を文章化したものから話し合いの工夫や流れを把握することが難しかったという状況から，音声としてだけでなく，表記されたものから読み取ることも併せて，この領域を指導していく必要性がある。目的に応じて質問することのできる力や，質問の意図を適切にとらえて答えられる力をつけさせたい。
書くこと	○書くことについては，国語A･国語Bともに，市や全国の平均をわずかに上回っている。 ○国語Bの記述式の問題の中で，話し手の意図を捉えながら聞き，話の展開に沿って質問する問題では全国平均を7ポイント上回った。 ●国語Bの記述式でも，グラフをもとにわかったことや自分の考えを書く問題では，県や全国の平均を下回っている。	･記述式の問題の中でも，グラフなどの資料をもとにして書く問題の正答率が低いことから，それらの資料から必要な情報を読み取る力も大切であると考える。国語の授業だけでなく，他教科の学習とも関連させて，文章以外の資料を適切に読み取るスキルをつけさせたい。その上で，読み取ったことが効果的に伝わる文章表現力を高めるため，書く機会を意図的に設定し，経験を重ねさせたい。
読むこと	○国語Aでは，市や全国の平均を上回っている。 ○国語Aの，図と表とを関係付けて読むことや，登場人物について複数の叙述を基に捉える問題の正答率が高い。 ●国語Bでは，市や全国の平均を下回っている。 ○国語Bの，自分の考えを明確にして文章の内容を捉えながら読む問題の正答率が高い。 ●国語Bの，比べて読むなど効果的な読み方を工夫する問題の正答率が低い。	･物語など文学的な文章の読解においては，意図的なブックトークや朝の読書時間などを充実させ，読む機会を増やしていく。文章における表現技法の理解をすすめ，情景や登場人物の心情を捉える根拠となる表現に気付くスキルを高める。 ･説明的な文章の読解においては，接続語や指示語についての理解を深め，短い時間で文章の内容を正しく捉えることができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aでは，市や全国の平均をわずかに上回っている。 ○ローマ字を書くことにおいては，市や全国に比べて正答率が高い。 ●漢字の読み書きについては，訓読みの漢字の正答率が低い。 ●ローマ字で表記された拗音を含む言葉を読む設問での正答率が低かった。	･漢字の読み書きについては，家庭学習も含めて繰り返し復習させ，習熟させる。同音，同訓の漢字や，正しい送り仮名の表記についても意識づけていく。 ･ローマ字の読み書きについて，拗音や促音の表記に慣れさせ，復習する場を意図的に与えていきたい。

宇都宮市立昭和小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

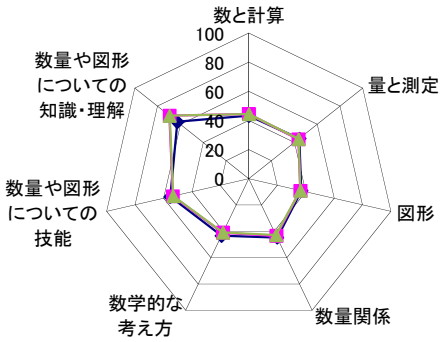
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	81.3	79.9	80.5
	量と測定	76.6	75.9	77.0
	図形	73.4	76.9	78.8
	数量関係	66.7	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	84.3	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	74.9	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	43.3	44.5	44.4
	量と測定	44.3	43.5	43.7
	図形	36.9	36.2	36.3
	数量関係	44.7	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	43.3	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	55.3	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	62.8	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数Aに関しては，市や全国の平均を上回っている。 ○除数が整数になるような計算の工夫を課する設問の正答率は，市や全国の平均を10ポイント上回っている。 ●示された場面を式に表す設問のでは，正答率が低い。 ○算数Bでは，市や全国の平均をわずかに下回っているものの，数学的な考え方の観点の記述式の設問では，全国を10ポイント上回っている。	・小数および分数の四則計算について，計算の能力を定着させ，それを用いる能力を伸ばすことができるよう，授業や家庭学習で習熟する機会を増やしていく。 ・逆数を用いて除法を乗法の計算としてみることや，整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめることなどについても，反復練習をさせていきたい。
量と測定	○算数Aの単位量当たりの大きさを求める問題では，全国の平均を8ポイント上回っている。 ●算数Aの底辺に対応する高さを選ぶ問題の正答率が低かった。 ○算数Bでは，市や全国の平均をわずかに上回っている。 ●算数Bの単位量当たりの大きさを求めるために必要な情報を選ぶ問題では，正答率が低かった。	・公式や言葉の式だけでなく，数直線や図などを用いたり，具体的な場面に当てはめたりしてわかりやすくするよう，授業の中で繰り返し指導していく。 ・複数学年での既習事項を復習し，面積や体積の求め方を覚えた上で，それらを活用して問題を解く経験を増やしていく。 ・速さの学習では，実際の場面と結び付けて理解を深めさせたい。 ・メートル法の単位の仕組みを復習させる。
図形	○算数Bでは，市や全国の平均をわずかに上回っている。 ○示された四角形を並べてできる図形を選ぶ問題においては，正答率が高かった。 ○記述式の問題の正答率がせんたくし高い。 ●算数Aでは，市や全国の平均を下回っている。 ●算数Aの直方体において示された面に垂直な面を選ぶ問題において正答率が低かった。	・授業の中で，図形を構成したり分解したりしながら操作する活動を多く取り入れて学習を進めることで，実感を伴った理解に結びつくようにする。 ・図形の性質の復習をしながら授業中，視覚的な教材の利用を工夫して習熟を図る。 ・日常生活の中での身近なものから，縮図や拡大図，対称な図形を見つける活動を大切にし，実感的な理解につなげさせる。
数量関係	○算数Bでは，市や全国の平均を上回っている。 ○算数Bの，表をもとにそこから読み取れない事柄を特定する問題や，グラフを根拠に示された事柄が正しくない理由を記述する問題の正答率が高かった。 ●算数Aでは，市や全国の平均を下回っている。 ●算数Aの示された場面を読み取り全体の人数を求める式に表す問題の正答率が低かった。	・伴って変わる二つの数量についての学習では，式・表・グラフなどを用いて理解を深めたり，身の回りから，比例の関係にある二つの数量を見付けたりする活動を多く取り入れるようにする。 ・文字式については，既習の復習はもちろんのこと，中学校数学科へつながる内容として，意識的に学習させていきたい。 ・朝の学習や隙間時間を利用して基礎基本の定着を図っていく。

宇都宮市立昭和小学校第６学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか」及び，「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答が，全国や県の平均を上回っている。向上心をもって新しいことや難しいことにもチャレンジしていこうとする意欲がうかがえる。また，将来の希望という点については，インターンシップでの体験や活動が望ましい刺激となり粮となったことと思われる。学校生活の中で，これからも目標に向かい，自信をもって様々な活動に取り組ませていきたい。

○「家の人と学校での出来事について話をしますか」の肯定的回答が，全国や県の平均を上回っており，また「家の手伝いをしていますか」についても上回っていることから，家庭での信頼関係が十分に築かれていることがうかがえる。お手伝いを通して家族の一員としての役割を自覚し，家族のためにできることに取り組みながら，心身ともに満たされた安定した生活を営んでいることがわかる。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や，「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の設問では，肯定的回答が全国や県を大きく上回り，10パーセントを超えている。地域や保護者の方々の学校への熱心な協力や温かい理解による数値であると考える。感謝の気持ちをもって地域を担う一員としての自覚を今後も高められるようにしたい。

○「人が困っているときは，進んで助けていますか」の設問では，肯定的回答が全国や県を上回り，「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」についての肯定的回答は，100パーセントに近い。他人を思いやる気持ちや，いじめは許さないという正しい判断力が育っていると思われる。

○「学級会などの話し合いの活動で自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり，折り合いをつけたりして話し合い，意見をまとめていますか」についても，肯定的回答の割合が高い。

●反面，「自分にはよいところがあると思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」についての肯定的回答が，全国や県を下回っている。自己肯定感を高め，自信をもって学校生活が送れるよう，学級活動を充実させたり，居がいのある学級づくりを工夫したりしていきたい。

●宿題や予習・復習への計画的な取り組みや，教科書を使った自学自習については，肯定的回答が低い結果である。家庭学習や自主学習の進め方について丁寧に指導し，授業においての学習指導について工夫を重ね，改めて指導していきたい。

●普段（月～金曜日）の勉強時間については，「3時間以上」との回答は全国を大きく上回っているが，「全くしない」という児童が6．4パーセントいるなど，個人差が大きい。個に応じた指導の充実に努めていきたい。